

高知大学医学部附属病院初期臨床研修メニュー



大学病院では、一般的な初期臨床研修はもちろんのこと、各領域の最先端医療も学ぶことができ、さらにその中で遭遇する難易度の高いcommon diseaseに対する対応力も養えます。高齢者や複数の疾患・既往を持つ患者さんが増え続けるなか、このようなちよつと欲張りな研修がきっと役にたつでしょう。

minimal requirement

診療科で実施する必修事項

厚生労働省の定める初期臨床研修修了のための必修事項について、診療科で研修できる事項を記載しています

optional items

診療科の特徴的な研修メニュー

キャリア・アップのための自己設計を考えるうえで、重要な研修事項について記載しています

message

minimal requirement

optional items

A 診察法・検査・手技	B 症状・病態・疾患	3. 疾患・病態
1. 基本的な臨床検査	1. 頻度の高い症状	血液・造血器・リンパ網内系疾患
一般尿検査	不眠	貧血(鉄欠乏性、二次性)
便検査	浮腫	運動器(筋骨格)系疾患
血算・白血球分画	リンパ節腫脹	骨粗鬆症
血液型判定・交差適合試験	発疹	循環器系疾患
心電図(12誘導)	発熱	主要な頻脈・徐脈性不整脈
動脈血ガス分析	頭痛	動脈硬化症、大動脈瘤
血液生化学的検査	めまい	高血圧症
血液免疫血清学的検査	視力障害、視野狭窄	呼吸器系疾患
細菌学的・薬剤感受性検査	結膜の充血	呼吸不全
肺機能検査	胸痛	呼吸器感染症
髄液検査	動悸	閉塞性・拘束性肺疾患
内視鏡検査	呼吸困難	消化器系疾患
超音波検査	咳・痰	食道・胃・十二指腸疾患
単純X線検査	嘔気・嘔吐	小腸・大腸疾患
X線CT検査	腹痛	肝疾患
2. 基本的手技	便通異常(下痢、便秘)	横隔膜・腹壁・腹膜
気道確保	腰痛	腎・尿路系疾患
人工呼吸	四肢のしびれ	腎不全
心マッサージ	血尿	泌尿器科的腎・尿路疾患
圧迫止血法	排尿障害(尿失禁・排尿困難)	内分泌・栄養・代謝系疾患
注射法	2. 緊急を要する症状・病態	糖代謝異常
採血法(静脈血、動脈血)	心肺停止	高脂血症
穿刺法(腰椎)	ショック	感染症
導尿法	意識障害	細菌感染症
ドレーン・チューブ類の管理	急性腹症	免疫・アレルギー疾患
胃管の挿入と管理	急性消化管出血	慢性関節リウマチ
局所麻酔法		加齢と老化
創部消毒とガーゼ交換		高齢者の栄養摂取障害
気管挿管		老年症候群
6. 医療記録		C 特定の医療現場の経験
診療録の作成		緩和ケア、終末期医療
処方箋・指示書の作成		
診断書の作成		
死亡診断書の作成		
CPCLレポート作成、症例呈示		
紹介状、返信の作成		

* 診療ガイドラインの基づく診療を実践する

近年、診療内容が高度化するとともに、診療ガイドラインもアップデートされ、高度化しています。診療ガイドラインに準拠した診療を、実践してみましょう。

* 低侵襲性診療を体験する

消化管内視鏡やIVRを用い、高い安全性、治療後のQOL維持、低い再発率を目指した患者さんに優しい医療を体験しましょう。高齢者や危険を伴う治療が必要な症例には必須のアイテムです。

* 近未来型超音波内視鏡診療を体験する

超音波内視鏡を用いた膵腫瘍の針生検や急性膵炎低侵襲治療など、胆膵領域におけるリスクを劇的に軽減する検査や低侵襲性治療がどのように行われているかを見学しましょう。

* 拡大消化管内視鏡検査を体験する

消化管腫瘍の悪性度評価を内視鏡検査で行うことにより、内視鏡手術や外科手術による腫瘍の根治性を劇的に向上させることができます。この最新医療を実感しましょう。

* 適応拡大内視鏡手術を体験する

高齢者や外科手術禁忌例を対象としたQOL重視の先進医療を行っています。時代を先取りした手術を見学してみましょう。

診療科から一言

初期研修では日常診療に必要な診療や処置の技術を身に着けることも大切ですが、低侵襲的で高QOLな診療の実際を体験することも大切です。時期を失することなく低侵襲的治療を患者さんに勧めることのできる能力を、この時期に身につけましょう。この診療に主治医として参加すれば、将来、消化器内科を目指す人は日本消化器病学会の求める研修カリキュラムの到達目標を達成でき、専門医を目指す後期研修の必須部分を先取りできます。

minimal requirement

optional items

A 診察法・検査・手技	B 症状・病態・疾患	運動器(筋骨格)系疾患
1. 基本的な臨床検査	1. 頻度の高い症状	骨粗鬆症
一般尿検査	不眠	循環器系疾患
便検査	浮腫	心不全
血算・白血球分画	リンパ節腫脹	不整脈
血液型判定・交差適合試験	発疹	動脈硬化症、大動脈瘤
心電図(12誘導)	発熱	高血圧症
動脈血ガス分析	頭痛	呼吸器系疾患
血液生化学的検査	めまい	呼吸不全
血液免疫血清学的検査	視力障害、視野狭窄	呼吸器感染症
細菌学的・薬剤感受性検査	結膜の充血	閉塞性・拘束性肺疾患
肺機能検査	胸痛	消化器系疾患
髄液検査	動悸	食道・胃・十二指腸疾患
内視鏡検査	呼吸困難	肝疾患
超音波検査	咳・痰	腎・尿路系疾患
単純X線検査	嘔気・嘔吐	腎不全
X線CT検査	腹痛	泌尿器科的腎・尿路疾患
2. 基本的手技	便通異常(下痢、便秘)	内分泌・栄養・代謝系疾患
気道確保	腰痛	糖代謝異常
人工呼吸	四肢のしびれ	高脂血症
心マッサージ	血尿	眼・視覚系疾患
圧迫止血法	排尿障害(尿失禁・排尿困難)	角結膜炎
注射法	2. 緊急を要する症状・病態	白内障
採血法(静脈血、動脈血)	心肺停止	耳鼻・咽喉・口腔系疾患
穿刺法(腰椎)	ショック	アレルギー性鼻炎
導尿法	意識障害	精神・神経系疾患
ドレーン・チューブ類の管理	急性腹症	認知症
胃管の挿入と管理	3. 疾患・病態	気分障害
局所麻酔法	血液・造血器・リンパ網内系疾患	感染症
創部消毒とガーゼ交換	貧血(鉄欠乏、二次性)	細菌感染症
6. 医療記録	神経系疾患	免疫・アレルギー疾患
診療録の作成	脳・脊髄血管障害	慢性関節リウマチ
処方箋・指示書の作成	皮膚系疾患	アレルギー疾患
診断書の作成	湿疹・皮膚炎群	加齢と老化
死亡診断書の作成	蕁麻疹	高齢者の栄養摂取障害
CPCLレポート作成, 症例呈示	皮膚感染症	老年症候群
紹介状, 返信の作成		C 特定の医療現場の経験
		予防医療
		緩和ケア、終末期医療

* 豊富な腎疾患・腎生検の経験がつかめる

腎生検の症例数は県内トップで、定期的に腎病理専門医を招き腎生検カンファも開催しています。生検組織の所見を判断でき、腎疾患の基本的な生活指導、食事療法、薬物療法を習得しましょう。

* 膠原病の最新治療の習得

膠原病の症例数は県内トップで、SLEやRAの主要症候を考えた医療面接と身体診察ができ、適切な診断法が習得できます。また、最新の生物学的製剤を用いた治療の経験もできます。

* 糖尿病診療: 基本の習得とアップデート

2型糖尿病の症例数は県内トップで、1型、妊娠糖尿病など特殊な症例も多く経験できます。充実したチーム医療で患者毎の治療を考える技術や、糖尿病診療の最先端知識も習得できます。

* 基本的な内分泌診療の習得

内科診療では、内分泌の理解が重要です。県内の内分泌疾患(甲状腺・下垂体・副腎疾患など)が集まり、基本的な診療に加え、診断・治療に難渋する症例で多面的アプローチも学習できます。

診療科から一言

内科専門医を目指す人には、日本内科学会の当科の範囲内の臨床研修カリキュラムの到達目標達成となります。腎臓学会、糖尿病学会、内分泌学会、リウマチ学会、透析医学会、高血圧学会専門医などサブスペシャリティを目指す人には後期研修での必須部分を先取りでき、知識、手技のレベルアップができます。

minimal requirement

optional items

A 診察法・検査・手技	6. 医療記録	3. 疾患・病態
1. 基本的な臨床検査	診療録の作成	血液・造血器・リンパ網内系疾患
一般尿検査	処方箋・指示書の作成	貧血(鉄欠乏、二次性)
便検査	診断書の作成	運動器(筋骨格)系疾患
血算・白血球分画	死亡診断書の作成	骨粗鬆症
血液型判定・交差適合試験	CPCLレポート作成, 症例呈示	循環器系疾患
心電図(12誘導)	紹介状, 返信の作成	高血圧症
動脈血ガス分析	B 症状・病態・疾患	呼吸器系疾患
血液生化学的検査	1. 頻度の高い症状	呼吸不全
血液免疫血清学的検査	不眠	呼吸器感染症
細菌学的検査・薬剤感受性検査	浮腫	閉塞性・拘束性肺疾患
肺機能検査	リンパ節腫脹	消化器系疾患
髄液検査	発疹	食道・胃・十二指腸疾患
内視鏡検査	発熱	内分泌・栄養・代謝系疾患
超音波検査	頭痛	糖代謝異常
単純X線検査	めまい	高脂血症
X線CT検査	胸痛	耳鼻・咽喉・口腔系疾患
2. 基本的手技	動悸	アレルギー性鼻炎
気道確保	呼吸困難	精神・神経系疾患
人工呼吸	咳・痰	身体表現性障害、ストレス関連障害
心マッサージ	嘔気・嘔吐	感染症
圧迫止血法	腹痛	ウイルス感染症
注射法	便通異常(下痢、便秘)	細菌感染症
採血法(静脈血、動脈血)	腰痛	結核
穿刺法(腰椎)	四肢のしびれ	免疫・アレルギー疾患
導尿法	2. 緊急を要する症状・病態	アレルギー疾患
ドレーン・チューブ類の管理	心肺停止	加齢と老化
胃管の挿入と管理	ショック	高齢者の栄養摂取障害
局所麻酔法	意識障害	老年症候群
創部消毒とガーゼ交換		C 特定の医療現場の経験
気管挿管		予防医療
		緩和ケア、終末期医療

* 超音波ガイドシース法

末梢の微小病変を診断するため、ガイドシースを留置して超音波プローブで病変の存在を確認し、繰り返し生検する方法です。最先端の気管支鏡検査手技の一つであるこの方法を習得できます。

* 超音波気管支鏡を用いたリンパ節生検

上記とは別の最先端超音波内視鏡手技です。多くの検体を採取し正診率を高めるためには、熟練を要します。当科では日常的に行っており技術を習得できます。

* Bf-Naviを用いた仮想気管支鏡・ガイドで行う気管支鏡検査

気管支鏡で目標への到達経路を同定するために、CTデータをもとに目標までの道筋を画像で見る仮想気管支鏡ソフトです。研修に積極的に取り入れており、気管支鏡検査手技の習得に役立ちます。

* 造血幹細胞移植

当院は、高知県におけるバンクを通じた骨髄移植認定2施設の一つで、県内の造血幹細胞移植医療の草分け的存在です。造血幹細胞採取・移植、GVHD管理のノウハウを研修することができます。

* 臍帯血移植

高知県で唯一の臍帯血移植認定施設である高知大学で臍帯血移植医療を研修することができます。

診療科から一言

気管支鏡検査は多くの施設で行われますが、超音波内視鏡やBf-Naviを導入している施設は少数です。当科では研修医にも積極的に加わっていただき高度な技術を身につけることができます。血液内科の究極の治療が造血幹細胞移植です。認定施設でなければできない専門性の高い医療です。その管理には苦勞も多いですが、ドラマも多いです。呼吸器内科・血液内科ともに感染症治療やがん薬物療法の基礎が身に付きます。感染症やがん薬物療法に興味のある方はぜひ研修に来てください。

minimal requirement

optional items

A 診察法・検査・手技	B 症状・病態・疾患	3. 疾患・病態
1. 基本的な臨床検査	1. 頻度の高い症状	血液・造血器・リンパ網内系疾患
一般尿検査	不眠	貧血(鉄欠乏、二次性)
便検査	浮腫	神経系疾患
血算・白血球分画	発熱	脳・脊髄血管障害
血液型判定・交差適合試験	頭痛	皮膚系疾患
心電図(12誘導)	めまい	湿疹・皮膚炎群
動脈血ガス分析	視力障害、視野狭窄	蕁麻疹
血液生化学的検査	胸痛	皮膚感染症
血液免疫血清学的検査	動悸	運動器系疾患
細菌学的検査・薬剤感受性検査	呼吸困難	骨粗鬆症
肺機能検査	咳・痰	循環器系疾患
髄液検査	嘔気・嘔吐	心不全
超音波検査	腹痛	狭心症、心筋梗塞
単純X線検査	便通異常(下痢、便秘)	不整脈
X線CT検査	腰痛	動脈硬化症、大動脈瘤
2. 基本的手技	2. 緊急を要する症状・病態	高血圧症
気道確保	血尿	呼吸器系疾患
人工呼吸	排尿障害(尿失禁・排尿困難)	呼吸不全
心マッサージ	心肺停止	呼吸器感染症
圧迫止血法	心臓ショック	閉塞性・拘束性肺疾患
注射法	意識障害	消化器系疾患
採血法(静脈血、動脈血)	脳血管障害	肝疾患
穿刺法(腰椎)	急性心不全	腎・尿路系疾患
導尿法	急性冠症候群	腎不全
ドレーン・チューブ類の管理	急性腹症	泌尿器科的腎・尿路疾患
胃管の挿入と管理		精神・神経系疾患
局所麻酔法		認知症
創部消毒とガーゼ交換		気分障害
気管挿管		感染症
除細動		細菌感染症
6. 医療記録		免疫・アレルギー疾患
診療録の作成		アレルギー疾患
処方箋・指示書の作成		加齢と老化
診断書の作成		高齢者の栄養摂取障害
死亡診断書の作成		老年症候群
CPCLレポート作成, 症例呈示		C 特定の医療現場の経験
紹介状, 返信の作成		救急医療
		予防医療
		緩和ケア、終末期医療

* 身体所見の取り方をマスターしよう

身体所見の重要性は、医学がどれだけ進歩しても変わりません。当科では、身体所見の取り方に精通した日本有数の指導医が、丁寧にかつ理論的に身体所見の取り方を教授します。

* 心電図読影から診断への道筋

循環器疾患の診断の糸口として、心電図診断は今もって非常に重要です。当科では、単なる心電図読影にとどまらず、心電図をkeywordとしていかに診断への道筋を立てるかを研修します。

* 冠動脈インターベンション

冠動脈インターベンションは、虚血性心疾患の治療で中心的な役割を果たしています。この治療法の基礎を、体系づけて習得します。

* 不整脈のアブレーション治療を知ろう

心房細動を中心とする不整脈に対する治療であるカテーテルアブレーション治療は、近年進歩が著しいです。この治療を理解し、その基礎を学びましょう

* 脳神経学的所見の完全マスター

脳神経疾患・筋疾患の新患・再来患者数は大変多く、疾患は多岐にわたります。①問診、②全身から所見を抜かりなくとる、③性質診断と部位診断を確実にを行うことを何よりも重視してマスターします。

* 脳神経救急の診断をマスターする

脳血管障害、脳炎、脊髄炎、ギランバレー症候群などを、各種検査を用いて正しく診断し、早期に治療を開始することをマスターします。

* 腰椎穿刺

適応と禁忌を正しく理解した上で、腰椎穿刺の確実な手技を習得します。

* 意識障害の診断

救急外来、入院患者さんを問わず、意識障害であっても全身所見・神経学的所見をきちんととり、病変部位とその性状の診断を確実にを行うことをマスターする。

* 脳脊髄の血管障害

診断を確実にを行う能力を養い、脳神経外科、整形外科と協力して早期治療を開始することができる力を養います。

* 脳神経画像診断

CT、MRI、各種核医学検査の実施数は非常に多く、その所見も多彩です。多くの症例の読影を通じて、診断能力を向上させます。

* 脳波所見の解説

脳波は「脳の心電図」とも言えます。多くの症例の判読を行って、意識障害、てんかん、脳機能障害の診断能力を向上させます。

* 誘発電位検査・心筋電図検査など

誘発電位検査・針筋電図検査の数を多くこなし、検査を自ら行うことが、ギランバレー症候群や筋萎縮性側索硬化症などの診断を自ら行うことができる能力を身につけます。

* パーキンソン病・類縁疾患、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、認知症

患者数は多数で、各疾患とも、患者さんそれぞれ病態や症状は異なります。ガイドラインにとらわれて画一的治療を行うのではなく、症例に応じて治療法を選択する能力を養います。

* てんかんの診断と治療

多くの症例を経験することで、症例ごとの治療方針を決定する能力を身につけます。

* 筋生検、末梢神経生検

適応を正しく身につけ、手技をマスターします。診断に関しては、各専門医と議論する能力を高めます。

* 難病患者の災害医療

当院は、高知県、日本神経学会と協力して訓練を行っている数少ない施設です。難病患者との連携を確認します。

* 遺伝子診断

遺伝子診断、遺伝カウンセリングにかかわることが非常に多いのが当科の特徴です。適応を正しく理解し、結果を正確に伝える能力を身につけます。

* 老年医学を極める

当科では、開設以来老年医学のメッカとして多くの人材を輩出してきました。その伝統を受け継ぎ、今後さらに重要性の増す老年医学を基礎より学ぶことができます。

診療科から一言

これらを主治医として体験すれば、日本神経学会の臨床研修カリキュラムの到達目標達成となり、専門医を目指す者には後期研修での必須部分を先取りでき、他領域を目指す者には耳学問として知識レベルをアップできる。

minimal requirement

A 診察法・検査・手技	浮腫	呼吸器系疾患
1. 基本的な臨床検査	リンパ節腫脹	呼吸不全
一般尿検査	発疹	呼吸器感染症
便検査	発熱	閉塞性・拘束性肺疾患
血算・白血球分画	頭痛	消化器系疾患
血液型判定・交差適合試験	めまい	食道・胃・十二指腸疾患
心電図(12誘導)	視力障害、視野狭窄	小腸・大腸疾患
動脈血ガス分析	結膜の充血	肝疾患
血液生化学的検査	胸痛	横隔膜・腹壁・腹膜
血液免疫血清学的検査	動悸	腎・尿路系疾患
細菌学的検査・薬剤感受性検査	呼吸困難	腎不全
肺機能検査	咳・痰	泌尿器科的腎・尿路疾患
髄液検査	嘔気・嘔吐	妊娠分娩と生殖器疾患
超音波検査	腹痛	妊娠分娩
単純X線検査	便通異常(下痢、便秘)	内分泌・栄養・代謝系疾患
X線CT検査	腰痛	糖代謝異常
2. 基本的手技	四肢のしびれ	高脂血症
気道確保	血尿	眼・視覚系疾患
人工呼吸	排尿障害(尿失禁・排尿困難)	角結膜炎
心マッサージ	2. 緊急を要する症状・病態	耳鼻・咽喉・口腔系疾患
圧迫止血法	心肺停止	中耳炎
注射法	ショック	アレルギー性鼻炎
採血法(静脈血、動脈血)	意識障害	精神・神経系疾患
穿刺法(腰椎)	脳血管障害	身体表現性障害、ストレス関連障害
導尿法	急性心不全	感染症
ドレーン・チューブ類の管理	急性腹症	ウイルス感染症
胃管の挿入と管理	急性消化管出血	細菌感染症
局所麻酔法	外傷	免疫・アレルギー疾患
創部消毒とガーゼ交換	急性中毒	慢性関節リウマチ
簡単な切開・排膿	熱傷	アレルギー疾患
皮膚縫合法	3. 疾患・病態	物理・化学的因子による疾患
軽度の外傷・熱傷	血液・造血器・リンパ網内系疾患	熱傷
気管挿管	貧血(鉄欠乏、二次性)	小児疾患
除細動	神経系疾患	小児けいれん性疾患
6. 医療記録	脳・脊髄血管障害	小児ウイルス感染症
診療録の作成	皮膚系疾患	小児喘息
処方箋・指示書の作成	湿疹・皮膚炎群	C 特定の医療現場の経験
診断書の作成	蕁麻疹	救急医療
死亡診断書の作成	皮膚感染症	予防医療
CPCレポートの作成、症例呈	運動器系疾患	地域医療
紹介状、返信の作成	骨粗鬆症	周産・小児・成育医療
B 症状・病態・疾患	循環器系疾患	精神保健・医療
1. 頻度の高い症状	心不全	緩和ケア、終末期医療
不眠	不整脈	地域保健
	高血圧症	

optional items

* 小児疾患の薬剤投与方法

外来で小児のcommon diseaseに接する機会は決して少なくありません。主だった疾患に対する処方例を知り、いざというときに役立つ力をつけます。

* ワクチンの知識とやり方

ワクチンについて、正しい知識を持ちあわせておくことは、小児科医にならずとも必要なことです。基本的な知識と打ち方を伝授します。

* アナフィラキシーの対処方法

食物アレルギーも決して稀ではありません。目の前でアナフィラキシーを見たとき、待たなしで適切な薬を使えるよう、薬剤の使い方を知っておきましょう。

* けいれん発作時の対処方法

けいれん発作を起こした児に遭遇した場合、専門医を呼ぶ前にもスタートしなければならぬ治療があります。発作時の薬の使い方について習得しましょう。

* 発達障害の知識

自閉症スペクトラム障害など発達障害は小児だけの問題ではなく、そのような疾患を持ったまま成長した成人に、どの診療科でも遭遇するでしょう。基本的な知識を得ておきましょう。

* 小児の基本的診療

小児の診察方法は成人とまったく同じではありませんし、いろいろなコツがあります。成人を対象とするほとんどの診療科でも必須の基本的診察法を習得しておきましょう。

* Pediatric advanced life support (PALS)

救急で運び込まれた小児の初期段階のABCが習得できます。模型を使った実践に近い形の講習会を、大学病院をふくめ関連病院で受講でき、既定の回数を受講すればPALS認定医がとれます。

* 心エコーと心臓カテーテル検査のやり方

心雑音、チアノーゼなどの症状から先天性心奇形の心エコーによるスクリーニングをやっていきます。さらに、ステップアップして心臓カテーテル検査や治療も研修できます。

* 食物負荷試験のやり方

食物アレルギー原因解明のために、食物負荷の実際を行います。実施中にアナフィラキシーが起きて大丈夫です。アナフィラキシーの対処は研修しますので。

* 腎生検と腎組織の読み方

成人とは少しやり方の違う小児の腎生検を実際に行っていきましょう。採取した組織の読み方の基本を研修でき、これは成人領域にも応用できます。

* 発達障害の診断

自閉症スペクトラム障害など発達障害は、診断が困難な例もありますが、Gilberg先生が開発したESSENCE法によりスクリーニングが容易になります。これらの診断法を研修できます。

診療科から一言

小児科専門医の研修到達目標を経験できます。PALS、心臓カテーテル検査、食物負荷試験、腎生検、発達障害の診断などは、他院では習得困難です。

minimal requirement

optional items

A 診察法・検査・手技	B 症状・病態・疾患	3. 疾患・病態
1. 基本的な臨床検査	1. 頻度の高い症状	精神・神経系疾患
一般尿検査	不眠	認知症
便検査	頭痛	気分障害
血算・白血球分画	めまい	統合失調症
心電図(12誘導)	胸痛	身体表現性障害、ストレス関連障害
血液生化学的検査	動悸	加齢と老化
髄液検査	呼吸困難	老年症候群
単純X線検査	嘔気・嘔吐	C 特定の医療現場の経験
X線CT検査	便通異常(下痢、便秘)	地域医療
2. 基本的手技	四肢のしびれ	精神保健・医療
注射法	排尿障害(尿失禁・排尿困難)	緩和ケア、終末期医療
採血法(静脈血、動脈血)	2. 緊急を要する症状・病態	地域保健
穿刺法(腰椎)	意識障害	
導尿法	急性中毒	
胃管の挿入と管理		
6. 医療記録		
診療録の作成		
処方箋・指示書の作成		
診断書の作成		
紹介状、返信の作成		

* せん妄の診断と対処

どの診療科でも、せん妄に遭遇します。また、まず自分で対処しなければならない場面も少なくありません。せん妄に対する診断と対処法を習得しておきましょう。

* 緩和ケア(精神腫瘍学)の習得

多くの診療科で癌患者さんの診療を行っています。癌患者さんへの精神面でのサポートは、癌そのものの治療と同様に大切なことです。精神面でのサポート技術を習得しましょう。

* 認知症の診断と対処

特に高齢化が進んでいる高知県では、認知症の理解無しで診療することは考えられません。高齢化社会における認知症に関する必須の知識と対処技能を習得しましょう。

* 脳画像検査の評価法

精神疾患は脳の機能及び構造の障害による精神の病です。このためfMRI, SPECT, DATScanなど、最先端の脳機能画像の評価法を習得しましょう。

診療科から一言

将来どの診療科に進んでも精神的な知識・技能を身につけていると、患者さんへの対応に自信がつけます。

minimal requirement

optional items

A 診察法・検査・手技	B 症状・病態・疾患	3. 疾患・病態
1. 基本的な臨床検査	1. 頻度の高い症状	血液・造血器・リンパ網内系疾患
一般尿検査	不眠	貧血(鉄欠乏、二次性)
便検査	浮腫	皮膚系疾患
血算・白血球分画	リンパ節腫脹	湿疹・皮膚炎群
血液型判定・交差適合試験	発疹	蕁麻疹
心電図(12誘導)	発熱	皮膚感染症
動脈血ガス分析	頭痛	消化器系疾患
血液生化学的検査	めまい	肝疾患
血液免疫血清学的検査	視力障害、視野狭窄	内分泌・栄養・代謝系疾患
細菌学的検査・薬剤感受性検査	結膜の充血	糖代謝異常
肺機能検査	胸痛	高脂血症
超音波検査	動悸	耳鼻・咽喉・口腔系疾患
単純X線検査	呼吸困難	アレルギー性鼻炎
X線CT検査	咳・痰	精神・神経系疾患
2. 基本的手技	嘔気・嘔吐	認知症
気道確保	腹痛	気分障害
人工呼吸	便通異常(下痢、便秘)	身体表現性障害、ストレス関連障害
心マッサージ	腰痛	感染症
圧迫止血法	四肢のしびれ	ウイルス感染症
包帯法	血尿	細菌感染症
注射法	排尿障害(尿失禁・排尿困難)	結核
採血法(静脈血、動脈血)	2. 緊急を要する症状・病態	免疫・アレルギー疾患
導尿法	ショック	慢性関節リウマチ
ドレーン・チューブ類の管理	意識障害	アレルギー疾患
胃管の挿入と管理	外傷	物理・化学的因子による疾患
局所麻酔法	急性中毒	熱傷
創部消毒とガーゼ交換	熱傷	小児疾患
簡単な切開・排膿		小児ウイルス感染症
皮膚縫合法		加齢と老化
軽度の外傷・熱傷		高齢者の栄養摂取障害
6. 医療記録		老年症候群
診療録の作成		C 特定の医療現場の経験
処方箋・指示書の作成		予防医療
診断書の作成		緩和ケア、終末期医療
死亡診断書の作成		
CPCLレポート作成, 症例呈示		
紹介状, 返信の作成		

* 乾癬の診断、治療

乾癬の診断、病勢評価法(PASI スコア)、生物学的治療(抗体療法)

* 生物学的治療

悪性黒色腫やT細胞性皮膚リンパ腫に対する生物学的治療の習得

* 皮膚病理組織診断

皮膚病理組織クラブ結成、上級医、病理医との合同カンファ

* 簡単な手術手技習得

* 蛍光抗体法

切片作成、抗体処理などの習得

* 美容皮膚科基本、レーザー治療の習得

診療科から一言

専門医などサブスペシャリティを目指す人には後期研修での必須部分を先取りでき、知識、手技のレベルアップができます。

minimal requirement

optional items

A 診察法・検査・手技	B 症状・病態・疾患	3. 疾患・病態
1. 基本的な臨床検査	1. 頻度の高い症状	血液・造血器・リンパ網内系疾患
一般尿検査	不眠	貧血(鉄欠乏、二次性)
便検査	頭痛	皮膚系疾患
血算・白血球分画	めまい	蕁麻疹
血液型判定・交差適合試験	胸痛	皮膚感染症
心電図(12誘導)	動悸	運動器(筋骨格)系疾患
動脈血ガス分析	呼吸困難	骨粗鬆症
血液生化学的検査	咳・痰	循環器系疾患
血液免疫血清学的検査	嘔気・嘔吐	動脈硬化症、大動脈瘤
細菌学的検査・薬剤感受性検査	腹痛	高血圧症
肺機能検査	便通異常(下痢、便秘)	呼吸器系疾患
超音波検査	腰痛	呼吸器感染症
単純X線検査	四肢のしびれ	閉塞性・拘束性肺疾患
X線CT検査	血尿	消化器系疾患
2. 基本的手技	排尿障害(尿失禁・排尿困難)	食道・胃・十二指腸疾患
注射法	2. 緊急を要する症状・病態	小腸・大腸疾患
採血法(静脈血、動脈血)	心肺停止	肝疾患
導尿法	ショック	腎・尿路系疾患
胃管の挿入と管理	意識障害	腎不全
局所麻酔法		妊娠分娩と生殖器疾患
6. 医療記録		男性生殖器疾患
診療録の作成		内分泌・栄養・代謝系疾患
処方箋・指示書の作成		糖代謝異常
診断書の作成		高脂血症
死亡診断書の作成		C 特定の医療現場の経験
CPCLレポートの作成, 症例呈示		緩和ケア、終末期医療
紹介状, 返信の作成		

* CT、MRI、PET画像診断法

CT、MRI読影の基本的な知識に加え、臓器別の専門性の高い読影技術や県内唯一のPET-CTの基本的な読影知識を習得しましょう。

minimal requirement

optional items

A 診察法・検査・手技	軽度の外傷・熱傷	3. 疾患・病態
1. 基本的な臨床検査	気管挿管	血液・造血器・リンパ網内系疾患
一般尿検査	除細動	貧血(鉄欠乏、二次性)
便検査	6. 医療記録	皮膚系疾患
血算・白血球分画	診療録の作成	蕁麻疹
血液型判定・交差適合試験	処方箋・指示書の作成	呼吸器系疾患
心電図(12誘導)	診断書の作成	呼吸器感染症
動脈血ガス分析	死亡診断書の作成	閉塞性・拘束性肺疾患
血液生化学的検査	CPCLレポート作成, 症例呈示	消化器系疾患
血液免疫血清学的検査	紹介状, 返信の作成	食道・胃・十二指腸疾患
細菌学的検査・薬剤感受性検査	B 症状・病態・疾患	小腸・大腸疾患
肺機能検査	1. 頻度の高い症状	肝疾患
内視鏡検査	不眠	横隔膜・腹壁・腹膜
超音波検査	浮腫	感染症
単純X線検査	リンパ節腫脹	細菌感染症
X線CT検査	発疹	加齢と老化
2. 基本的手技	発熱	高齢者の栄養摂取障害
気道確保	呼吸困難	C 特定の医療現場の経験
人工呼吸	咳・痰	救急医療
心マッサージ	嘔気・嘔吐	緩和ケア、終末期医療
圧迫止血法	腹痛	
包帯法	便通異常(下痢、便秘)	
注射法	2. 緊急を要する症状・病態	
採血法(静脈血、動脈血)	心肺停止	
導尿法	ショック	
ドレーン・チューブ類の管理	急性腹症	
胃管の挿入と管理	急性消化管出血	
局所麻酔法	外傷	
創部消毒とガーゼ交換	急性中毒	
簡単な切開・排膿	熱傷	
皮膚縫合法		

* 消化器外科の基本手技

上部消化管、下部消化管、肝胆膵外科の基本手技は、どの外科系診療科に進んでも役立ちます。多くの手術に参加することで、基本手技をしっかり身につけておきましょう。

* 乳腺・内分泌外科の基本手技

超音波及びマンモグラフィ診断の基本を習得しましょう。また、乳房・甲状腺手術の適応を理解し、体表手術の基本手技を修得しておきましょう。

* 小児外科の基本手技

小児外科の外科手技を学ぶことは、一般診療で小児を診る際にもきっと役立つでしょう。外科基本手技と、その適応、危険性を理解し、身につけましょう。

* 胸腔穿刺、腹腔穿刺、リザーバー留置

内科系診療科に進む人も実施する機会がありますが、内科であっても処置の質が低下してはなりませんし、高齢者で出血傾向のある患者さんも増えてきます。確実な手技を身につけましょう。

* 腹腔鏡手術のスコピスト

腹腔鏡手術の基本を理解することは、消化器外科に進む人だけでなく、腹腔内の治療を伴う診療科にも役立ちますし、直接腹部内臓を見る多くの経験を通じて画像診断にも役立つでしょう。

診療科から一言

外科専門医取得に必須です。

minimal requirement

optional items

A 診察法・検査・手技	軽度の外傷・熱傷	3. 疾患・病態
1. 基本的な臨床検査	気管挿管	血液・造血器・リンパ網内系疾患
一般尿検査	除細動	貧血(鉄欠乏、二次性)
便検査	6. 医療記録	皮膚系疾患
血算・白血球分画	診療録の作成	蕁麻疹
血液型判定・交差適合試験	処方箋・指示書の作成	呼吸器系疾患
心電図(12誘導)	診断書の作成	呼吸器感染症
動脈血ガス分析	死亡診断書の作成	閉塞性・拘束性肺疾患
血液生化学的検査	CPCLレポート作成, 症例呈示	消化器系疾患
血液免疫血清学的検査	紹介状, 返信の作成	食道・胃・十二指腸疾患
細菌学的検査・薬剤感受性検査	B 症状・病態・疾患	小腸・大腸疾患
肺機能検査	1. 頻度の高い症状	肝疾患
内視鏡検査	不眠	横隔膜・腹壁・腹膜
超音波検査	浮腫	感染症
単純X線検査	リンパ節腫脹	細菌感染症
X線CT検査	発疹	加齢と老化
2. 基本的手技	発熱	高齢者の栄養摂取障害
気道確保	呼吸困難	C 特定の医療現場の経験
人工呼吸	咳・痰	救急医療
心マッサージ	嘔気・嘔吐	緩和ケア、終末期医療
圧迫止血法	腹痛	
包帯法	便通異常(下痢、便秘)	
注射法	2. 緊急を要する症状・病態	
採血法(静脈血、動脈血)	心肺停止	
導尿法	ショック	
ドレーン・チューブ類の管理	急性腹症	
胃管の挿入と管理	急性消化管出血	
局所麻酔法	外傷	
創部消毒とガーゼ交換	急性中毒	
簡単な切開・排膿	熱傷	
皮膚縫合法		

* コンサルテーション上手になる

上級医、他科へのコンサルテーションの仕方を習得する。いつ、どのように行うか、コンサルテーション上手になれば知識も身につきます。

* 必要最低限の外科基本手技を身につける

一人当直でも困らないように、軽い外傷なら対応できる基本手技(縫合)を身につけましょう。内科系でも、災害時には基本的な外科処置が役立つはずです。

* がん患者とのコミュニケーション方法

がん患者さんとの良好なコミュニケーションを行い信頼関係を築く。コミュニケーションにもノウハウがあります。それをぜひ身につけて下さい。

minimal requirement

optional items

A 診察法・検査・手技	6. 医療記録	3. 疾患・病態
1. 基本的な臨床検査	診療録の作成	血液・造血器・リンパ網内系疾患
一般尿検査	処方箋・指示書の作成	貧血(鉄欠乏、二次性)
便検査	診断書の作成	神経系疾患
血算・白血球分画	死亡診断書の作成	脳・脊髄血管障害
血液型判定・交差適合試験	CPCLレポート作成, 症例呈示	皮膚系疾患
心電図(12誘導)	紹介状, 返信の作成	湿疹・皮膚炎群
動脈血ガス分析	B 症状・病態・疾患	皮膚感染症
血液生化学的検査	1. 頻度の高い症状	循環器系疾患
細菌学的検査・薬剤感受性検査	不眠	心不全
肺機能検査	浮腫	狭心症、心筋梗塞
内視鏡検査	リンパ節腫脹	不整脈
超音波検査	発熱	動脈硬化症、大動脈瘤
単純X線検査	胸痛	高血圧症
X線CT検査	動悸	呼吸器系疾患
2. 基本的手技	呼吸困難	呼吸不全
気道確保	咳・痰	呼吸器感染症
人工呼吸	嘔気・嘔吐	閉塞性・拘束性肺疾患
心マッサージ	腹痛	肺悪性腫瘍
圧迫止血法	便通異常(下痢、便秘)	縦隔腫瘍
包帯法	四肢のしびれ	嚢胞性肺疾患
注射法	血尿	膿胸
採血法(静脈血、動脈血)	2. 緊急を要する症状・病態	消化器系疾患
導尿法	心肺停止	食道・胃・十二指腸疾患
ドレーン・チューブ類の管理	ショック	小腸・大腸疾患
胃管の挿入と管理	急性心不全	肝疾患
局所麻酔法	急性冠症候群	腎・尿路系疾患
創部消毒とガーゼ交換	急性腹症	腎不全
簡単な切開・排膿	外傷	泌尿器科的腎・尿路疾患
皮膚縫合法	熱傷	妊娠分娩と生殖器疾患
軽度の外傷・熱傷		男性生殖器疾患
気管挿管		感染症
除細動		細菌感染症
		C 特定の医療現場の経験
		救急医療
		緩和ケア、終末期医療

* エコーを身体所見の一部として使おう

ポケットエコーが身体所見の一部となる日も近いことを先取りし、心臓、腹部を含め全身エコーを学ぶとともに、CV挿入など処置・治療でエコーガイドを用いた安全確実な手技を身に付けます。

* 胸腔穿刺のノウハウをマスターする

天皇陛下も受けられた胸腔穿刺をマスターしましょう。自ら胸水を診断し、ドレナージの適応を評価し、穿刺の手技を身に付けます。

* 周術期で不整脈の診断、管理を学ぶ

心臓手術の後に30%で起こる心房細動をはじめ、各種頻脈性不整脈の診断、鑑別診断を行い、治療の必要性を判断して薬物療法・カルディオバージョンを実際に行います。

* 経食道心エコー法の基本を学ぶ

経食道心エコーのプローブ操作、基本画面の描出、基本的な診断などを身につけましょう。循環器内科、救急、麻酔領域で役立つでしょう。

* 病態別:安全で痛みのない確実な胸腔ドレナージ

病態に応じた適切な挿入部位の決定、壁側胸膜への確実な浸潤麻酔、適切なキットの選択など、呼吸器外科専門医が胸腔ドレナージのあらゆるノウハウを伝授します。

* 3次元画像を自在に操り治療に役立てる

CTやPETなどの3次元画像を自分でサクサク作成し、治療に活用する時代が到来しました。最新システムSynapse Vincentを使用し、3次元画像を作成するノウハウを伝授します。

* 治療のための呼吸器内視鏡

異物誤嚥による窒息、腫瘍による中枢気道狭窄、肺炎に伴う気道内分泌物の増量、無気肺など緊急時における気管支鏡の選択と気管支インターベンション手技を伝授します。

* 自分で扱う「癌」の生物的生態を知る

あなたが治療している癌の増殖を、CD-DST法(抗癌剤感受性試験)を用いて細胞レベルで実際に目で見て確認して下さい。これから癌臨床を実践する上で貴重な経験になること請け合いです。

* 鏡視下手術の達人になる

セッサとハサミから鏡視下手術器具に持ち替えて、大血管を剥離露出、リンパ節郭清。本物の道具と動物生体組織を用いたWetlab。で達人への道の第一歩を踏み出します。

診療科から一言

高齢者の増加とともに、心臓血管疾患が背後に潜んでいる患者さんがどの診療科でも増えてきます。それをエコーで見つけることを含め、緊急の事態を起こしうる疾患について経験を積んでおくことが役にたつと思います。とくに救急、麻酔科領域、総合診療専門医を目指す人にメリットがあるでしょう。

minimal requirement

optional items

A 診察法・検査・手技	6. 医療記録	3. 疾患・病態
1. 基本的な臨床検査	診療録の作成	皮膚系疾患
一般尿検査	処方箋・指示書の作成	湿疹・皮膚炎群
便検査	診断書の作成	皮膚感染症
血算・白血球分画	死亡診断書の作成	運動器系疾患
血液型判定・交差適合試験	CPCLレポート作成, 症例呈示	骨折
心電図(12誘導)	紹介状, 返信の作成	関節・靭帯の損傷及び障害
動脈血ガス分析	B 症状・病態・疾患	循環器系疾患
血液生化学的検査	1. 頻度の高い症状	動脈硬化症、大動脈瘤
細菌学的検査・薬剤感受性検査	不眠	感染症
肺機能検査	浮腫	ウイルス感染症
超音波検査	リンパ節腫脹	細菌感染症
単純X線検査	発疹	免疫・アレルギー疾患
X線CT検査	発熱	アレルギー疾患
2. 基本的手技	頭痛	物理・化学的因子による疾患
気道確保	めまい	熱傷
人工呼吸	視力障害、視野狭窄	C 特定の医療現場の経験
心マッサージ	結膜の充血	救急医療
圧迫止血法	胸痛	周産・小児・成育医療
包帯法	動悸	
注射法	呼吸困難	
採血法(静脈血、動脈血)	咳・痰	
穿刺法(腰椎)	嘔気・嘔吐	
導尿法	腹痛	
ドレーン・チューブ類の管理	便通異常(下痢、便秘)	
胃管の挿入と管理	腰痛	
局所麻酔法	四肢のしびれ	
創部消毒とガーゼ交換	血尿	
簡単な切開・排膿	排尿障害(尿失禁・排尿困難)	
皮膚縫合法	2. 緊急を要する症状・病態	
軽度の外傷・熱傷	外傷	
	熱傷	

* 傷を治す技術を習得する

外傷から動脈硬化性・糖尿病性壊疽まで、様々な症例で傷の管理法(持続陰圧療法、デブリードマン、植皮術など)を習得できます。高齢化社会では、どの診療科でも必須です。

* 脂肪移植による軟部組織再建

吸引した脂肪組織を注入移植し軟部組織の欠損を修復する技術です。美容外科や、顔面や乳房などの変形に用いられる有用な方法です。形成外科手技とともに美容外科手技も習得出来ます。

診療科から一言

今後、高齢化を迎えるにあたり、創傷治癒に対する技術習得は、どの診療科でも必要なことです。外科系を目指す医師にかぎらず、内科系の医師の方にも是非学んでほしい技術です。

minimal requirement

A 診察法・検査・手技	B 症状・病態・疾患
1. 基本的な臨床検査	2. 緊急を要する症状・病態
一般尿検査	心肺停止
血液型判定・交差適合試験	ショック
心電図(12誘導)	意識障害
動脈血ガス分析	脳血管障害
血液生化学的検査	急性心不全
肺機能検査	急性腹症
単純X線検査	3. 疾患・病態
X線CT検査	C 特定の医療現場の経験
2. 基本的手技	術前の検診と術後回診
気道確保	手術室での術中麻酔管理
人工呼吸	全身麻酔の導入、維持、覚醒
圧迫止血法	区域麻酔の管理
注射法	回復室での重症者管理
採血法(静脈血、動脈血)	集中治療室での重症者管理
導尿法	緩和ケア、終末期医療
胃管の挿入と管理	
局所麻酔法	
気管挿管	

optional items

* 周術期管理に必要な知識を習得しよう

術前検査、問診、術前診察から患者さんの問題点を把握します。これをもとに指導医と個々の患者に最適な麻酔方法を計画し、実施します。術後に患者さんを訪問し、麻酔後の患者の状態を診察します。この過程を通して周術期管理を実践できる基本的な知識と技術を習得します。

* 急変患者を救うために必要な基本技術を習得しよう

周術期管理に必要な基本手技は、急変した患者を救うために必要な技術でもあります。麻酔管理を通して、気道確保、経口気管挿管、など基本手技を身につけましょう。指導医がマンツーマンで指導にあたるので確実に基本技術を習得できます。

* 麻酔管理を通して周術期管理マスターになろう

麻酔管理を深く学ぶことによって侵襲から生体の恒常性を守るスペシャリストになることを目指します。この中には人工呼吸管理の実践、中心静脈カテーテル、肺動脈カテーテルの挿入、脊髄くも膜下麻酔、末梢神経ブロックの実施などより高度な技術の習得も含まれます。

* 麻酔の知識を活かしてより多くの患者の治療に関わろう

麻酔管理で身につけた知識と技術は集中治療、ペインクリニック、緩和ケアでもその分野のしっかりとした土台として役に立ちます。興味のある領域の研修を追加することで、より多くの患者の治療に関わりませんか。それぞれの分野に精通した指導医が指導にあたります。

診療科から一言

オープンした新病棟が誇る最新設備の手術室およびICUで、全身管理の基本となる麻酔ならびに集中治療の研修が受けられます。

指導医とマンツーマンのICU当直では、緊急対応への自信がつけます。

minimal requirement

optional items

A 診察法・検査・手技	6. 医療記録	3. 疾患・病態
1. 基本的な臨床検査	診療録の作成	血液・造血器・リンパ網内系疾患
一般尿検査	処方箋・指示書の作成	貧血(鉄欠乏、二次性)
血算・白血球分画	診断書の作成	皮膚系疾患
血液型判定・交差適合試験	死亡診断書の作成	湿疹・皮膚炎群
心電図(12誘導)	紹介状、返信の作成	運動器系疾患
動脈血ガス分析	B 症状・病態・疾患	骨粗鬆症
血液生化学的検査	1. 頻度の高い症状	循環器系疾患
細菌学的検査・薬剤感受性検査	不眠	高血圧症
肺機能検査	浮腫	腎・尿路系疾患
超音波検査	リンパ節腫脹	泌尿器科的腎・尿路疾患
単純X線検査	発疹	妊娠分娩と生殖器疾患
X線CT検査	発熱	妊娠分娩
2. 基本的手技	頭痛	内分泌・栄養・代謝系疾患
注射法	めまい	糖代謝異常
採血法(静脈血、動脈血)	嘔気・嘔吐	高脂血症
導尿法	腹痛	精神・神経系疾患
ドレーン・チューブ類の管理	便通異常(下痢、便秘)	気分障害
胃管の挿入と管理	腰痛	感染症
局所麻酔法	血尿	細菌感染症
創部消毒とガーゼ交換	排尿障害(尿失禁・排尿困難)	C 特定の医療現場の経験
簡単な切開・排膿	2. 緊急を要する症状・病態	周産・小児・成育医療
皮膚縫合法	ショック	緩和ケア、終末期医療
	急性腹症	

* 産科超音波検査法に強くなる

周産期における各種診断(妊娠の診断、胎児計測、胎児形態異常、奇形、胎盤異常など)に必須である超音波検査法を修得するプログラムです。

* 分娩時異常出血への緊急対応が強くなる

ショックに至る可能性の高い分娩時出血(弛緩出血、頸管裂傷、膈壁裂傷、癒着胎盤など)に対する緊急的取り扱いを修得します。

* 婦人科特有の診察手技に強くなる

婦人科疾患の診断に重要な内診技術と、子宮・付属器を中心とした経膈超音波検査法を重点的に学びます。子宮筋腫、卵巣腫瘍、子宮内膜ポリープ、異所性妊娠などの診断に強くなりましょう。

* 女性の急性腹症の鑑別診断ができる

婦人科急性腹症(異所性妊娠、卵巣腫瘍茎捻転など)は、他臓器疾患との鑑別が困難で、また初期妊娠の正しい診断が必要です。この鑑別診断に強くなることは临床上極めて有意義です。

* 婦人科内視鏡手術に強くなる

開腹手術に平行し、内視鏡下手術の基本手技修練を行います。当院の低侵襲手術教育トレーニングセンターでドライラボやバーチャル機器などシミュレーターを用い、技術向上に努めます。

* 周産期を含めた災害救急医療に強い産婦人科医になる

日本DMAT隊員養成研修や高知DMAT研修会を受講し、DMAT隊員を育てます。とくに災害時周産期救急を修得するため、ALSOやBLSOの講習会・研修会に参加します。

診療科から一言

産科婦人科のプログラムは、日常臨床から救急までを修得できるように作られています。婦人科特有の診断法の修得、緊急的産科出血への対応、来る災害救急への実践的な準備など、個々のスキルアップとともに、高知県の産科婦人科医療にも大きく貢献するプログラムとなっています。

minimal requirement

A 診察法・検査・手技	B 症状・病態・疾患
1. 基本的な臨床検査	1. 頻度の高い症状
一般尿検査	発熱
血算・白血球分画	腰痛
血液型判定・交差適合試験	四肢のしびれ
心電図(12誘導)	2. 緊急を要する症状・病態
動脈血ガス分析	外傷
血液生化学的検査	3. 疾患・病態
血液免疫血清学的検査	血液・造血器・リンパ網内系疾患
細菌学的検査・薬剤感受性検査	貧血(鉄欠乏、二次性)
肺機能検査	運動器系疾患
髄液検査	骨折
単純X線検査	関節・靭帯の損傷及び障害
X線CT検査	骨粗鬆症
2. 基本的手技	脊柱障害
圧迫止血法	感染症
包帯法	細菌感染症
注射法	免疫・アレルギー疾患
採血法(静脈血、動脈血)	慢性関節リウマチ
穿刺法(腰椎)	加齢と老化
導尿法	高齢者の栄養摂取障害
ドレーン・チューブ類の管理	老年症候群
局所麻酔法	C 特定の医療現場の経験
創部消毒とガーゼ交換	救急医療
簡単な切開・排膿	予防医療
皮膚縫合法	周産・小児・成育医療
軽度の外傷・熱傷	緩和ケア、終末期医療
6. 医療記録	
診療録の作成	
処方箋・指示書の作成	
診断書の作成	
紹介状、返信の作成	

optional items

* 高齢者の運動器トータルケア

高齢化率30%を越す高知県において健康寿命を延伸させることは最重要課題のひとつです。高齢者特有の運動器疾患を数多く経験し、保存治療から手術までトータルケアが可能になります。

* スポーツ整形外科

各種のスポーツ大会に帯同し、さまざまなスポーツ活動を支援します。また、スポーツ医学・スポーツ整形外科の基本的知識と技術を習得できます。

* 骨折治療入門編

大腿骨頸部骨折と橈骨遠位端骨折は上級医の指導のもとに手術を執刀します。その他の骨折についても保存治療や骨接合手術を経験し、骨折治療の入門編をマスターできます。

* 骨軟部腫瘍の治療経験

一般病院では経験できない骨肉腫、軟骨肉腫などの悪性腫瘍の手術や化学療法を経験できます。これらの治療経験は、専門医を取得するには必須なものです。

* 人工関節手術の経験

県内有数の手術件数を誇っており、一般病院では治療困難な再置換例も少なくありません。専門医の指導のもと数多くの人工関節手術を経験し、基本的な知識と展開法、後療法を習得できます。

診療科から一言

地域医療や災害時の医療で役立つ内容が多いです。

minimal requirement

A 診察法・検査・手技
2. 基本的手技
注射法
採血法(静脈血、動脈血)
局所麻酔法
創部消毒とガーゼ交換
6. 医療記録
診療録の作成
処方箋・指示書の作成
診断書の作成
紹介状、返信の作成
B 症状・病態・疾患
1. 頻度の高い症状
発熱
視力障害、視野狭窄
結膜の充血
3. 疾患・病態
眼・視覚系疾患
屈折異常
角結膜炎
白内障
緑内障
感染症
細菌感染症
免疫・アレルギー疾患
アレルギー疾患

optional items

* 眼科のcommon diseaseを習得

眼科のcommon disease(屈折異常、角結膜炎、ドライアイ、白内障、緑内障、糖尿病・高血圧・動脈硬化による眼底変化)の病態を理解し、治療を説明できるようになります。

* 基本的眼科処置の習得

眼科の基本的な処置(点眼薬/眼軟膏の点入、洗眼、結膜細菌培養、睫毛抜去、涙管通水検査/涙嚢洗浄、結膜下注射、角結膜異物除去)を理解、習得できます。

* 眼科の基本的手術手技を習得

種々の術前検査や術前洗眼、ドレーピング、手術顕微鏡・機器セッティング、手術介助、術後処置(眼帯、点眼指導、結膜抜糸など)を習得し、豚眼を用いた模擬白内障手術などを経験します。

* レーザー治療を理解する

代表的なレーザー治療の適応を理解し説明できるようになります。また、網膜光凝固術、レーザー虹彩切開術、後発白内障に対する後囊切開術などを経験します。

* 眼科緊急疾患の理解と一次的治療を習得

眼科領域の緊急疾患(角結膜異物、角膜びらん、眼球打撲、急性緑内障発作、網膜中心動脈閉塞症、網膜中心静脈閉塞症)などを理解し、プライマリケアでも役立つ一時的治療を習得します。

診療科から一言

初期臨床研修のうちに自分で経験しておけば、他の診療科に進んでもきっと役立ちます。

minimal requirement

A 診察法・検査・手技	6. 医療記録
1. 基本的な臨床検査	診療録の作成
一般尿検査	処方箋・指示書の作成
便検査	診断書の作成
血算・白血球分画	紹介状, 返信の作成
血液型判定・交差適合試験	B 症状・病態・疾患
心電図(12誘導)	1. 頻度の高い症状
動脈血ガス分析	浮腫
血液生化学的検査	リンパ節腫脹
血液免疫血清学的検査	発熱
細菌学的検査・薬剤感受性検査	めまい
肺機能検査	呼吸困難
内視鏡検査	咳・痰
超音波検査	2. 緊急を要する症状・病態
単純X線検査	外傷
X線CT検査	3. 疾患・病態
2. 基本的手技	呼吸器系疾患
気道確保	呼吸器感染症
注射法	耳鼻・咽喉・口腔系疾患
採血法(静脈血、動脈血)	中耳炎
導尿法	アレルギー性鼻炎
ドレーン・チューブ類の管理	感染症
胃管の挿入と管理	ウイルス感染症
局所麻酔法	細菌感染症
創部消毒とガーゼ交換	免疫・アレルギー疾患
簡単な切開・排膿	アレルギー疾患
皮膚縫合法	加齢と老化
軽度の外傷・熱傷	高齢者の栄養摂取障害
気管挿管	老年症候群
	C 特定の医療現場の経験
	緩和ケア、終末期医療

optional items

* めまいへの対応を学ぶ

めまいは救急などのプライマリー診療でしばしば遭遇する症状です。眼振検査や平衡機能検査による鑑別診断法と初期治療法を習得しましょう。

* 頭頸部内視鏡検査手技をマスターする

鼻咽腔内視鏡、喉頭内視鏡、中耳内視鏡検査の手技をマスターし、その所見を理解します。

* 嚥下の仕組みと検査法を理解する

嚥下障害は、高齢者はもちろん、脳性麻痺などの小児などさまざまな診療科でも対応を迫られています。嚥下障害の診断と治療、特に外科的治療の適応と手技を学びましょう。

* 睡眠時無呼吸症候群の診断・治療を学ぶ

睡眠時無呼吸症候群は成人ばかりでなく小児にもしばしばみられます。終夜睡眠ポリソムノグラフィー(PSG検査)による診断と治療法選択について学びましょう。

* 音声障害診療のプロになる

音声障害に対する内視鏡診断や音声リハビリテーション・音声機能改善手術の適応と手技を学ぶことで、コミュニケーションにおける音声の役割を理解します。

* 頭頸部内視鏡手術の手技を学ぶ

中耳内視鏡手術、副鼻腔内視鏡手術、喉頭内視鏡手術、唾液腺内視鏡手術など、耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の内視鏡手術手技を学びます。

診療科から一言

中耳炎、鼻出血、呼吸困難、頸部リンパ節腫脹など、研修医が経験すべきプライマリー疾患についても常時診療を行っており、研修医のスキルアップに貢献できること間違いなし！！

minimal requirement

optional items

A 診察法・検査・手技	6. 医療記録	3. 疾患・病態
1. 基本的な臨床検査	診療録の作成	血液・造血器・リンパ網内系疾患
一般尿検査	処方箋・指示書の作成	貧血(鉄欠乏、二次性)
便検査	診断書の作成	神経系疾患
血算・白血球分画	死亡診断書の作成	脳・脊髄血管障害
血液型判定・交差適合試験	CPCLレポートの作成, 症例呈示	皮膚系疾患
心電図(12誘導)	紹介状, 返信の作成	蕁麻疹
動脈血ガス分析	B 症状・病態・疾患	運動器系疾患
血液生化学的検査	1. 頻度の高い症状	骨粗鬆症
血液免疫血清学的検査	不眠	脊柱障害
細菌学的検査・薬剤感受性検査	発熱	循環器系疾患
肺機能検査	頭痛	心不全
髄液検査	めまい	高血圧症
超音波検査	視力障害、視野狭窄	呼吸器系疾患
単純X線検査	結膜の充血	呼吸不全
X線CT検査	便通異常(下痢、便秘)	呼吸器感染症
2. 基本的手技	腰痛	消化器系疾患
気道確保	四肢のしびれ	食道・胃・十二指腸疾患
人工呼吸	血尿	内分泌・栄養・代謝系疾患
心マッサージ	排尿障害(尿失禁・排尿困難)	糖代謝異常
圧迫止血法	2. 緊急を要する症状・病態	高脂血症
包帯法	心肺停止	精神・神経系疾患
注射法	ショック	認知症
採血法(静脈血、動脈血)	意識障害	気分障害
穿刺法(腰椎)	脳血管障害	感染症
導尿法	急性心不全	ウイルス感染症
ドレーン・チューブ類の管理	急性消化管出血	細菌感染症
胃管の挿入と管理	外傷	小児疾患
局所麻酔法		小児けいれん性疾患
創部消毒とガーゼ交換		加齢と老化
簡単な切開・排膿		高齢者の栄養摂取障害
皮膚縫合法		老年症候群
軽度の外傷・熱傷		C 特定の医療現場の経験
気管挿管		救急医療
除細動		緩和ケア、終末期医療

* ハイブリッド型脳卒中診療: 脳梗塞

1. 脳梗塞の内科的治療ならびにt-PA投与
2. 他病院でのt-PA投与後、ヘリコプターによるStroke Care UnitへのいわゆるDrip & Ship治療
3. アテローム血栓症ならびに脳塞栓症に対しての様々なデバイスを用いた脳血管内治療

* ハイブリッド型脳卒中診療: 脳出血

1. 脳出血に対する内科的治療
2. 脳出血に対する顕微鏡下開頭血腫除去術
3. 脳出血に対する内視鏡下低侵襲血腫除去術
4. 脳室内出血に対するドレナージ術
5. 脳室内出血に対する内視鏡下血腫除去術

* ハイブリッド型脳卒中診療: くも膜下出血

1. くも膜下出血に対する開頭クリッピング術
2. くも膜下出血に対する脳血管内治療、コイル塞栓術
3. 重傷くも膜下出血に対するハイブリッド型治療ー内視鏡併用コイル塞栓術

* ハイブリッド型脳卒中診療: ニューロリハビリテーション

ロボットスーツやBrain machine interfaceを用いた最先端ニューロリハビリテーションの実施と開発

診療科から一言

各contentsは、その性格上特殊であり、やる気のある研修医を更にレベルアップさせるものにしたと思います。脳卒中専門医や脳血管内治療専門医、神経内視鏡技術認定医、脳神経外科専門医に繋がるものです。

minimal requirement

A 診察法・検査・手技	B 症状・病態・疾患
1. 基本的な臨床検査	1. 頻度の高い症状
一般尿検査	不眠
血算・白血球分画	浮腫
血液型判定・交差適合試験	リンパ節腫脹
心電図(12誘導)	発熱
動脈血ガス分析	便通異常(下痢、便秘)
血液生化学的検査	腰痛
細菌学的検査・薬剤感受性検	四肢のしびれ
肺機能検査	血尿
内視鏡検査	排尿障害(尿失禁・排尿困
超音波検査	2. 緊急を要する症状・病態
単純X線検査	急性腹症
X線CT検査	外傷
2. 基本的手技	3. 疾患・病態
注射法	血液・造血器・リンパ網内系疾患
採血法	貧血(鉄欠乏、二次性)
導尿法	循環器系疾患
ドレーン・チューブ類の管理	高血圧症
胃管の挿入と管理	腎・尿路系疾患
局所麻酔法	腎不全
創部消毒とガーゼ交換	泌尿器科的腎・尿路疾患
簡単な切開・排膿	妊娠分娩と生殖器疾患
皮膚縫合法	男性生殖器疾患
6. 医療記録	感染症
診療録の作成	細菌感染症
処方箋・指示書の作成	結核
診断書の作成	加齢と老化
死亡診断書の作成	高齢者の栄養摂取障害
GPCレポートの作成, 症例呈示	老年症候群
紹介状, 返信の作成	C 特定の医療現場の経験
	緩和ケア、終末期医療

optional items

* 尿路(膀胱)癌の光力学診断と内視鏡治療

5アミノレブリン酸を服用し赤色光で癌に蛍光発色させて診断する技術です。他大学で見ることでできない診断技術が経験できます。光力学診断を用いて研修医で膀胱癌内視鏡手術を行えます。

* 腎臓癌の腹腔鏡下腎部分切除術

全国の数施設でのみ安全に行われています。研修医が行うことはできませんが、難度の高い手術を体験できます。当科では年間20例ほど行っています。

* 前立腺癌のMRI診断と前立腺生検

当科では年間150例以上の前立腺生検を行っており、3TMRIで前立腺癌の局在を診断しています。95%の診断確率が得られており、これにより前立腺生検は研修医でも簡単に実施できます。

* 腎盂尿管癌のPET画像診断

腎盂尿管癌は診断が難しい疾患ですが、当科と放射線科で共同開発したPET診断技術で容易に局在診断ができ、年間30例以上がこの方法で発見されています。研修医も容易に体験できます。

* 前立腺癌の包括的治療システム

前立腺癌に対するダビンチによるロボット補助下前立腺全的術、I125による前立腺癌の小線源治療、イリジウムHigh dose rate(HDR)放射線治療、IMRT(高密度放射線治療)を学びましょう。

診療科から一言

どれも本学でしか行えない優れた診断治療技術です。

minimal requirement

optional items

A 診察法・検査・手技	B 症状・病態・疾患	循環器系疾患
1. 基本的な臨床検査	1. 頻度の高い症状	心不全
一般尿検査	不眠	狭心症、心筋梗塞
便検査	浮腫	不整脈
血算・白血球分画	リンパ節腫脹	動脈硬化症、大動脈瘤
血液型判定・交差適合試験	発疹	高血圧症
心電図(12誘導)	発熱	呼吸器系疾患
動脈血ガス分析	頭痛	呼吸不全
血液生化学的検査	めまい	呼吸器感染症
血液免疫血清学的検査	視力障害、視野狭窄	閉塞性・拘束性肺疾患
細菌学的検査・薬剤感受性検査	結膜の充血	消化器系疾患
肺機能検査	胸痛	食道・胃・十二指腸疾患
超音波検査	動悸	小腸・大腸疾患
単純X線検査	呼吸困難	肝疾患
X線CT検査	咳・痰	横隔膜・腹壁・腹膜
2. 基本的手技	嘔気・嘔吐	妊娠分娩と生殖器疾患
気道確保	腹痛	男性生殖器疾患
人工呼吸	便通異常(下痢、便秘)	内分泌・栄養・代謝系疾患
心マッサージ	腰痛	糖代謝異常
注射法	四肢のしびれ	高脂血症
採血法(静脈血、動脈血)	血尿	耳鼻・咽喉・口腔系疾患
導尿法	排尿障害(尿失禁・排尿困難)	中耳炎
胃管の挿入と管理	2. 緊急を要する症状・病態	アレルギー性鼻炎
局所麻酔法	心肺停止	精神・神経系疾患
創部消毒とガーゼ交換	ショック	認知症
簡単な切開・排膿	意識障害	気分障害
皮膚縫合法	脳血管障害	身体表現性障害、ストレス関連障害
軽度の外傷・熱傷	急性心不全	感染症
気管挿管	急性冠症候群	ウイルス感染症
除細動	急性腹症	細菌感染症
6. 医療記録	急性中毒	免疫・アレルギー疾患
診療録の作成	3. 疾患・病態	アレルギー疾患
処方箋・指示書の作成	血液・造血器・リンパ網内系疾患	C 特定の医療現場の経験
診断書の作成	貧血(鉄欠乏、二次性)	救急医療
死亡診断書の作成	皮膚系疾患	予防医療
紹介状、返信の作成	湿疹・皮膚炎群	地域医療
	蕁麻疹	
	皮膚感染症	

* 患者満足度の高い面接テクニックの習得

他施設では不安が解消しなかった患者さんへの対応はきわめて重要です。患者満足度を高め、正しい診断に近づくための面接のテクニックを身につけよう。

* 見落としのない系統的診察法のマスター

患者さんの問題解決には、無駄なくかつ見落としのない系統的診察が必要です。医療面接と連動した、系統的診察法はすべての臨床医に必須の能力です。

* 臨床推論の基本を身につけよう

evidenceに基づく臨床推論法はどのような領域でも必要とされます。領域にとらわれない幅広い分野を見渡す総合診療部だからこそ身につけられます。あなたもドクターGになれる。

診療科から一言

患者満足度が高い医療面接や身体診察、臨床推論能力を獲得して、外来初診に強くなろう。救急研修とは違う側面で研修します。

minimal requirement

A 診察法・検査・手技	B 症状・病態・疾患	循環器系疾患
1. 基本的な臨床検査	1. 頻度の高い症状	心不全
一般尿検査	不眠	狭心症、心筋梗塞
便検査	浮腫	不整脈
血算・白血球分画	リンパ節腫脹	動脈硬化症、大動脈瘤
血液型判定・交差適合試験	発疹	高血圧症
心電図(12誘導)	発熱	呼吸器系疾患
動脈血ガス分析	頭痛	呼吸不全
血液生化学的検査	めまい	呼吸器感染症
血液免疫血清学的検査	視力障害、視野狭窄	閉塞性・拘束性肺疾患
細菌学的検査・薬剤感受性検査	結膜の充血	消化器系疾患
肺機能検査	胸痛	食道・胃・十二指腸疾患
内視鏡検査	動悸	小腸・大腸疾患
超音波検査	呼吸困難	肝疾患
単純X線検査	咳・痰	横隔膜・腹壁・腹膜
X線CT検査	嘔気・嘔吐	腎・尿路系疾患
2. 基本的手技	腹痛	腎不全
気道確保	便通異常	泌尿器科的腎・尿路疾患
人工呼吸	腰痛	妊娠分娩と生殖器疾患
心マッサージ	四肢のしびれ	男性生殖器疾患
圧迫止血法	血尿	内分泌・栄養・代謝系疾患
包帯法	排尿障害(尿失禁・排尿困難)	糖代謝異常
注射法	2. 緊急を要する症状・病態	高脂血症
採血法(静脈血、動脈血)	心肺停止	耳鼻・咽喉・口腔系疾患
導尿法	ショック	中耳炎
胃管の挿入と管理	意識障害	アレルギー性鼻炎
局所麻酔法	脳血管障害	感染症
創部消毒とガーゼ交換	急性心不全	ウイルス感染症
簡単な切開・排膿	急性冠症候群	細菌感染症
皮膚縫合法	急性腹症	免疫・アレルギー疾患
軽度の外傷・熱傷	急性消化管出血	アレルギー疾患
気管挿管	外傷	物理・化学的因子による疾患
除細動	急性中毒	熱傷
6. 医療記録	熱傷	加齢と老化
診療録の作成	3. 疾患・病態	高齢者の栄養摂取障害
処方箋・指示書の作成	神経系疾患	老年症候群
診断書の作成	脳・脊髄血管障害	C 特定の医療現場の経験
死亡診断書の作成	運動器系疾患	救急医療
紹介状、返信の作成	骨折	
	関節・靭帯損傷及び障害	
	脊柱障害	

optional items

* 南海トラフ地震の概要を理解しよう

南海トラフ地震の概要と大学病院の役割について理解し、高知県災害時医療救護計画についても学ぶ。

* 災害医療のコンセプトを理解しよう

災害医療のコンセプトであるCSCATTTやDMATIについて理解する。

* トリアージをものにしよう

傷病者の重症度と緊急度に応じたトリアージが実施できる(START法+PAT法)。

* 安定化治療をマスターしよう

安定化治療について理解し、実施できる。

* 広域医療搬送を知ろう

広域医療搬送とStaging Care Unitの役割を理解し、DMATと共働できる。

診療科から一言

南海トラフ地震対策を念頭に、災害医療に関する知識と技能を習得しましょう。災害医学教育はすべての医療者が学ぶべきであり、特に高知県で働く研修医には必須です。希望してもなかなか受講が困難な日本DMAT隊員養成研修の内容に準じたものを提供します。現時点では高度な災害医療教育と言えますが、災害医療教育を底上げする非常に有効な内容です。

minimal requirement

optional items

A 診察法・検査・手技	B 症状・病態・疾患	3. 疾患・病態
1. 基本的な臨床検査	1. 頻度の高い症状	血液・造血器・リンパ網内系疾患
一般尿検査	不眠	貧血(鉄欠乏、二次性)
便検査	浮腫	皮膚系疾患
血算・白血球分画	リンパ節腫脹	湿疹・皮膚炎群
血液型判定・交差適合試験	発疹	蕁麻疹
心電図(12誘導)	発熱	皮膚感染症
動脈血ガス分析	頭痛	循環器系疾患
血液生化学的検査	めまい	狭心症、心筋梗塞
血液免疫血清学的検査	視力障害、視野狭窄	不整脈
細菌学的検査・薬剤感受性検査	結膜の充血	動脈硬化症、大動脈瘤
肺機能検査	胸痛	呼吸器系疾患
髄液検査	動悸	呼吸器感染症
超音波検査	呼吸困難	腎・尿路系疾患
2. 基本的手技	咳・痰	腎不全
圧迫止血法	嘔気・嘔吐	内分泌・栄養・代謝系疾患
採血法(静脈血、動脈血)	腹痛	糖代謝異常
創部消毒とガーゼ交換	便通異常(下痢、便秘)	高脂血症
6. 医療記録	腰痛	精神・神経系疾患
診療録の作成	四肢のしびれ	認知症
	血尿	気分障害
	排尿障害(尿失禁・排尿困難)	統合失調症
		C 特定の医療現場の経験
		緩和ケア、終末期医療

* エコー検査の習得

心臓・腹部を中心に、体表面エコーも含めた全領域のエコーを習得し、後期研修ひいては専門医取得後にも活かせる知識・技術を獲得します。地域医療や災害医療でも役立ちます。

* グラム染色や細菌培養など

後期研修中や研修修了後に検査室のない施設で働く場合でも、感染症診療に困らないよう知識・技術を獲得しましょう。希望により、細菌培養や遺伝子検査を学び、後期研修に役立てましょう。

* 輸血・細胞治療

正しい輸血の適応と安全な輸血手技に関する実習、造血幹細胞の採取、保存に関する実習。

診療科から一言

エコーやグラム染色、正しい輸血の適応や手技は、僻地・離島など、あなた一人っきりの診療現場でも役立ちます。

minimal requirement

A 診察法・検査・手技
6. 医療記録
CPCLレポート作成, 症例呈示

optional items

* 外科症例の目的に沿った切り出しを習得

摘出臓器、組織から自分で切り出しを行い、肉眼所見や報告上必要な事項を学習します。病理医を目指す人はもちろん、将来、依頼する側に進む人にとっても貴重な経験となるでしょう。

* 取り扱い規約、TNM分類に則った診断

切り出した症例を鏡顕し、各種規約に基づく診断とともにUICCのTNM分類に関して学びます。癌を扱う診療科に進む人には、基本としてマスターしておいてほしい。

診療科から一言

病理医を目指す方は早めに病理の研修を行いその概要などを知った上で、できるだけ多数の臨床科を回って、臨床医の求める病理像を学んでください。